

議事（1）

アンケート調査結果（抜粋）について

～ 目次 ～

- 1 調査概要…………… P 1
- 2 障害者手帳所持者を対象とした調査結果…………… P 2
- 3 市民を対象とした調査結果…………… P 8
- 4 障害児通所支援を利用している児童を対象とした調査結果…… P 13
- 5 アンケートから見えた現状と課題、計画の方向性…………… P 19

1 調査概要

1-1 調査目的

障害者の障害の程度や生活の状況、障害者（児）及びその他の市民の意識等を把握し、今後の徳島市における障害者施策の総合的かつ計画的な推進のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

1-2 調査対象

- ① 18歳以上の障害者手帳（身体・療育・精神）所持者のうち、各5～10%程度
- ② 住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民のうち、0.2%程度
- ③ 障害児通所支援受給者（児童）のうち、5%程度

1-3 調査方法

郵送配布－郵送回収

1-4 調査期間

令和5年7月21日～8月11日

1-5 回収状況

	対象者数	回収数	回収率
	(A)	(B)	(C/B)
身体障害者	450人	197	43.8%
知的障害者	200人	98	49.0%
精神障害者	250人	95	38.0%
障害者の計	900人	354	39.3%
障害児	100人	32	32.0%
市民	500人	136	27.2%
全体の計	1,500人	522	34.8%

※障害者種別ごとの回収数（B）は、重度障害者等が含まれるため、身体・知的・精神障害者の合計は障害者の計と一致しない。

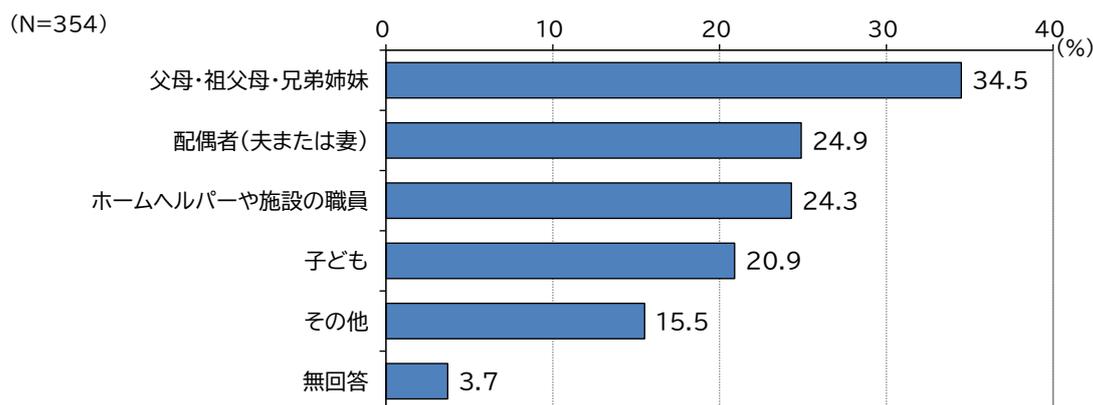
2 障害者手帳所持者を対象とした調査結果

2-1 あなたご自身のことについて

問5 主に支援してくれる人

あなたを支援してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

主に支援してくれる人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(34.5%)が最も多く、次いで「配偶者(夫または妻)」(24.9%)、「ホームヘルパーや施設の職員」(24.3%)となっています。

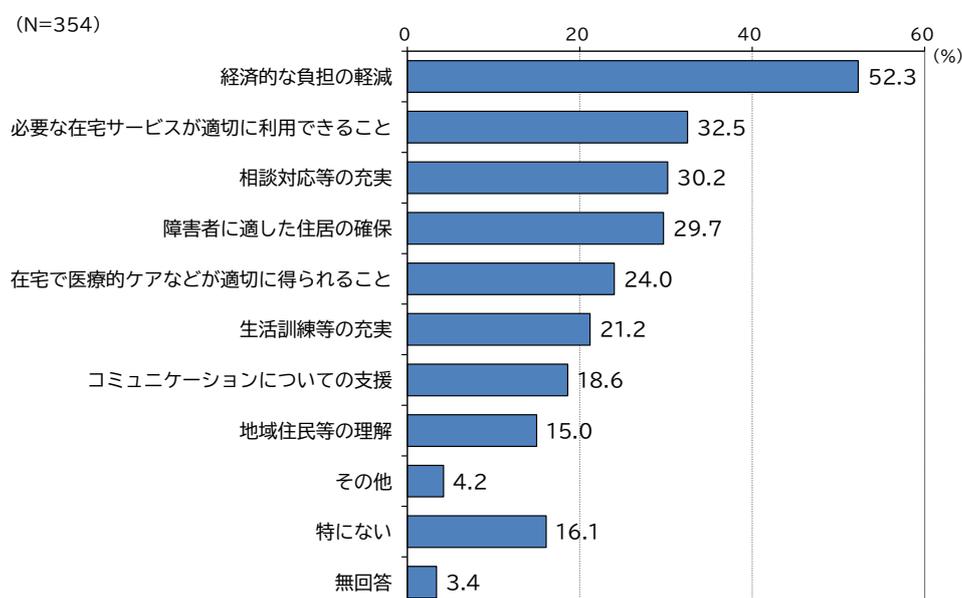


2-2 住まいや暮らしについて

問18 希望する暮らしを送るために必要な支援

希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

希望する暮らしを送るために必要な支援は、「経済的な負担の軽減」(52.3%)が最も多く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(32.5%)、「相談対応等の充実」(30.2%)となっています。

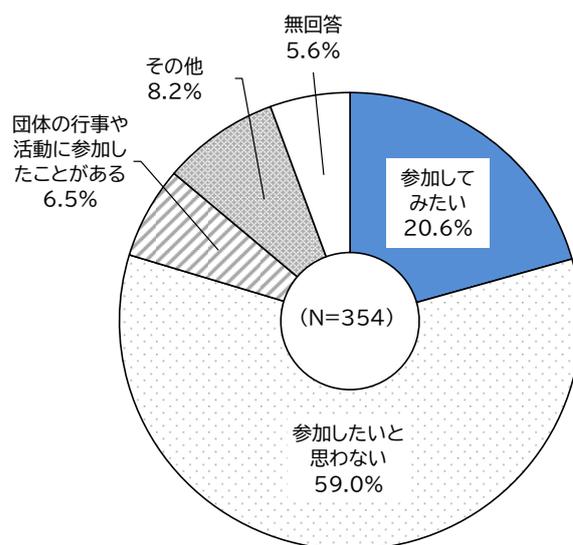


2-3 日中活動や就労について

問 2 2 障害者団体の行事等への参加意向

あなたは、障害者団体の行事や活動に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ)

障害者団体の行事等への参加意向は、「参加したいと思わない」(59.0%)が最も多く、次いで「参加してみたい」(20.6%)、「団体の行事や活動に参加したことがある」(6.5%)となっています。

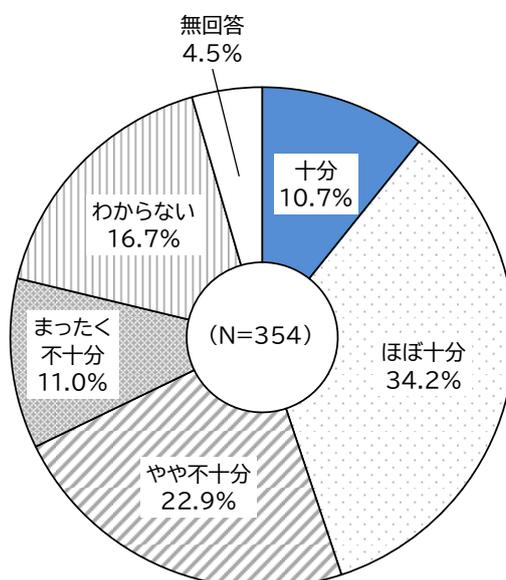


2-4 相談相手について

問 3 1 困った時の相談体制に対する評価

困った時の相談体制について、現在の状態はあなたにとって十分ですか。(〇は1つだけ)

困った時の相談体制に対する評価は、「十分」と「ほぼ十分」を合わせた『十分』と感じている人が4割以上を占めているものの、「やや不十分」と「まったく不十分」を合わせた『不十分』と感じている人も3割以上となっています。

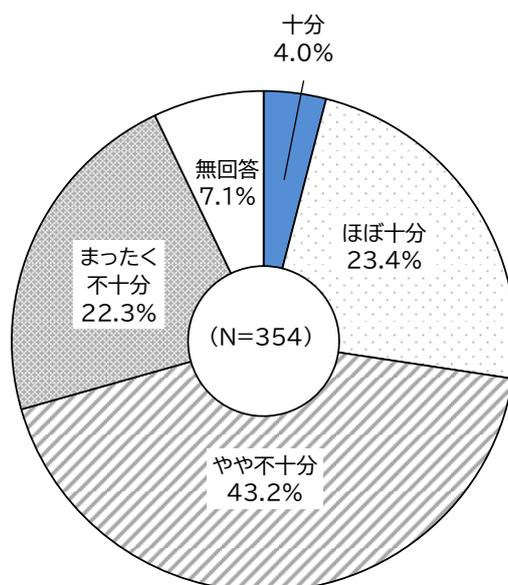


2-5 情報の入手について

問34 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価

あなたは現在、福祉に関する情報を十分に得られていると思いますか（○は1つだけ）

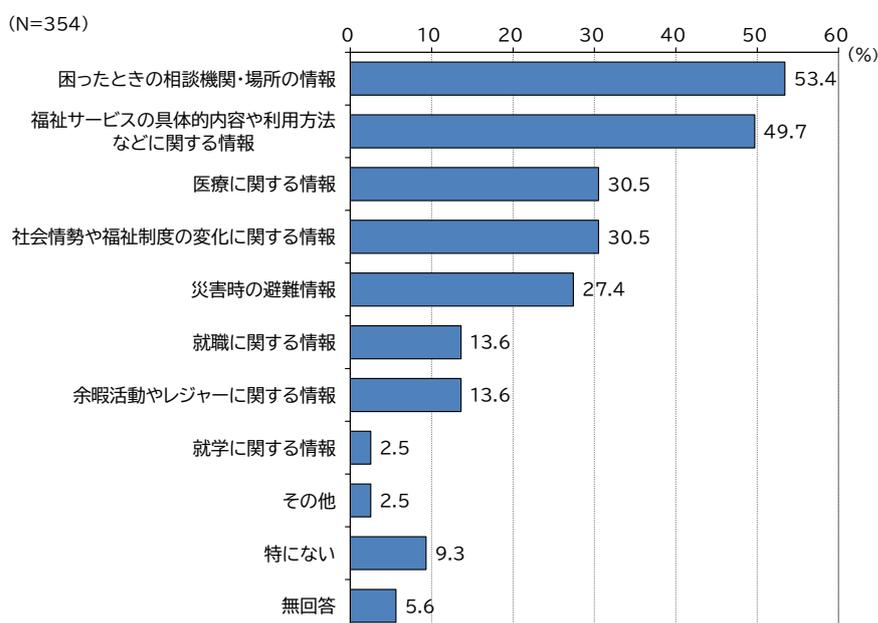
障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価は、「やや不十分」と「まったく不十分」を合わせた『不十分』と感じている人が『十分』と感じている人を上回っており、6割近くを占めています。



問35 今後充実してほしい情報

あなたは今後、どのような情報を充実してほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後充実してほしい情報は、「困ったときの相談機関・場所の情報」（53.4%）が最も多く、次いで「福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報」（49.7%）となっています。



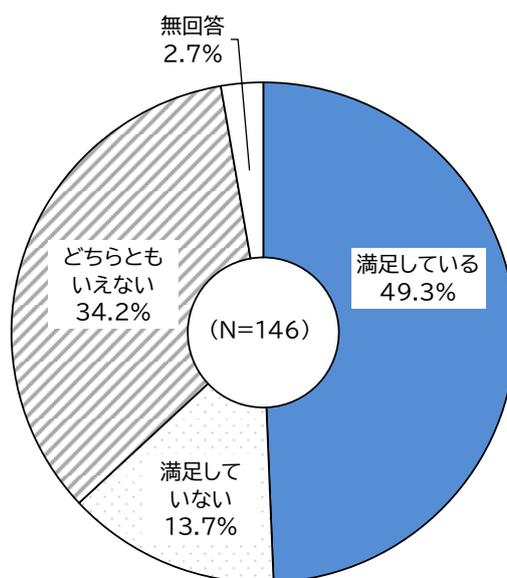
2-6 障害福祉サービスの利用について

問38 利用している障害福祉サービスの満足度

問37で「1」～「26」を選択した方のみお答えください。

あなたは利用している障害福祉サービスに満足していますか。(○は1つだけ)

利用している障害福祉サービスの満足度は、「満足している」(49.3%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(34.2%)、「満足していない」(13.7%)となっています。

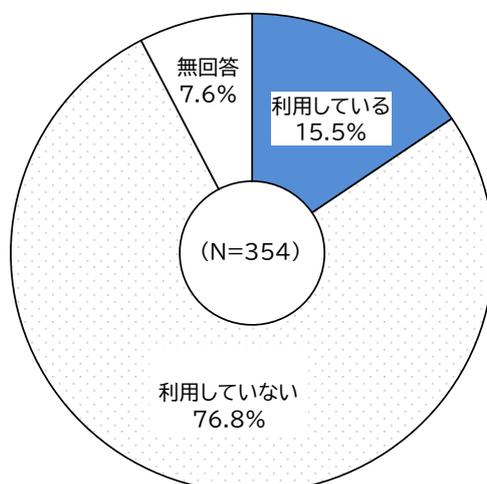


2-7 介護保険サービス等の利用について

問42 介護保険サービスの利用状況

あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

介護保険サービスの利用状況は、「利用している」(15.5%)、「利用していない」(76.8%)となっています。

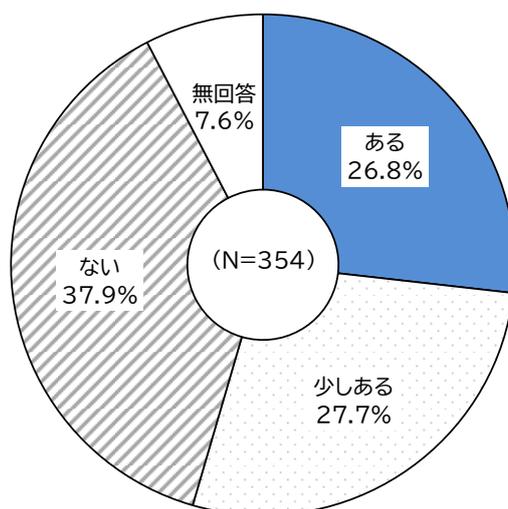


2-8 権利擁護について

問44 障害があることで差別や嫌な思いをしたこと

あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（○は1つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをしたことは、「ない」（37.9%）が最も多く、次いで「少しある」（27.7%）、「ある」（26.8%）となっています。

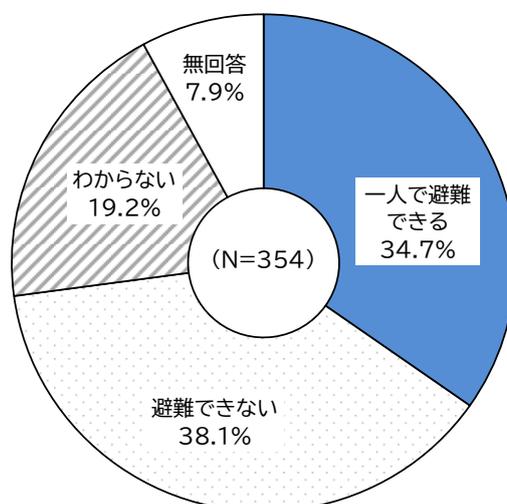


2-9 災害時の避難等について

問49 災害などの緊急時の避難が一人でできるか

あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。（○は1つだけ）

災害などの緊急時の避難が一人でできるかは、「一人で避難できる」（34.7%）は3人に1人程度にとどまっており、4割近くの人が「避難できない」という結果となっています。

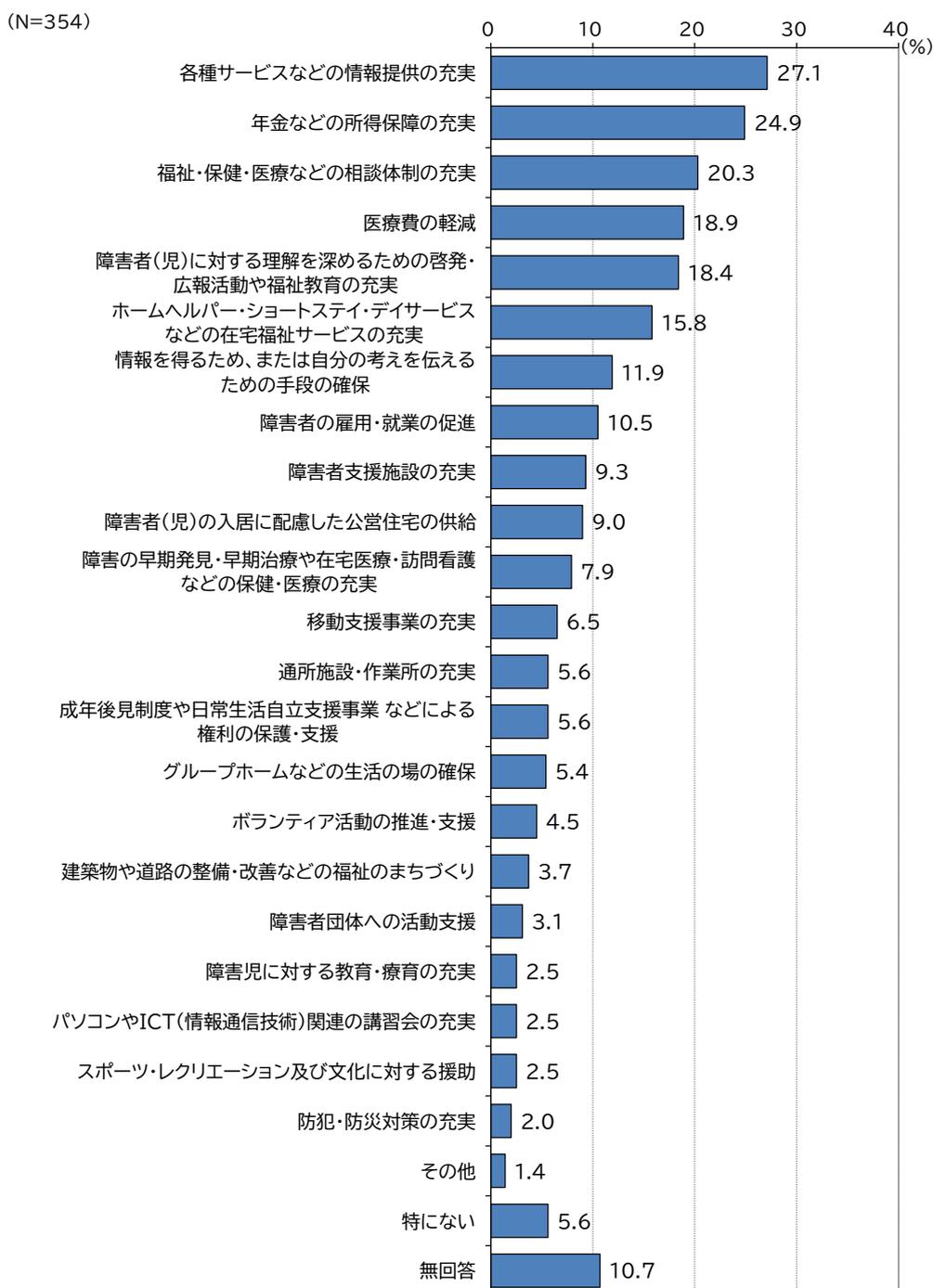


2-10 障害福祉施策について

問52 今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

今後、障害者福祉分野においてあなたがもっとも充実してほしいのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「各種サービスなどの情報提供の充実」(27.1%)が最も多く、次いで「年金などの所得保障の充実」(24.9%)、「福祉・保健・医療などの相談体制の充実」(20.3%)、「医療費の削減」(18.9%)、「障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育の充実」(18.4%)となっています。



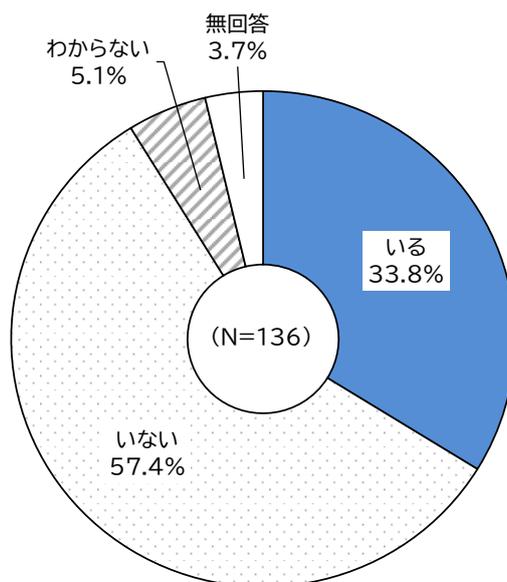
3 市民を対象とした調査結果

3-1 あなたご自身のことについて

問4 身近な障害者の有無

あなたの身近に障害のある方はいますか。(○は1つだけ)

身近な障害者の有無は、「いない」(57.4%)が最も多く、次いで「いる」(33.8%)、「わからない」(5.1%)となっています。

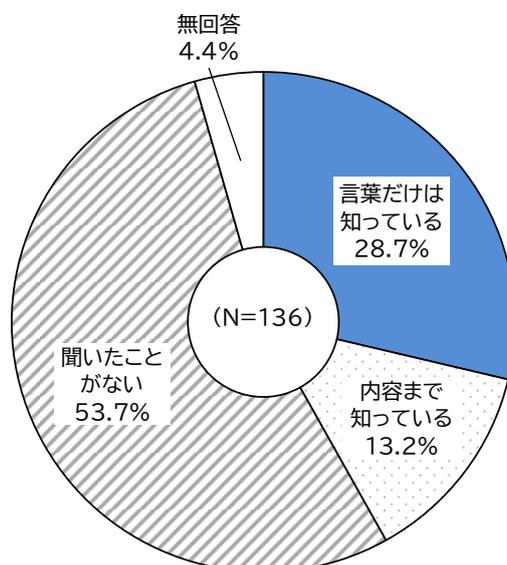


3-2 障害者（児）に対する意識について

問5 ノーマライゼーションの認知度

あなたは、「ノーマライゼーション」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

ノーマライゼーションの認知度は、「聞いたことがない」(53.7%)が半数以上を占め、「内容まで知っている」(13.2%)は1割程度となっています。

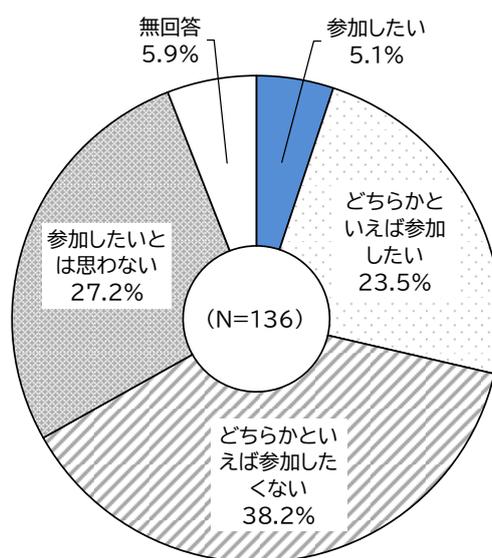


3-3 ボランティア活動について

問12 福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向

今後、障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ)

福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向は、「どちらかといえば参加したくない」と「参加したいとは思わない」を合わせた『参加したくない』という人が6割以上を占めています。

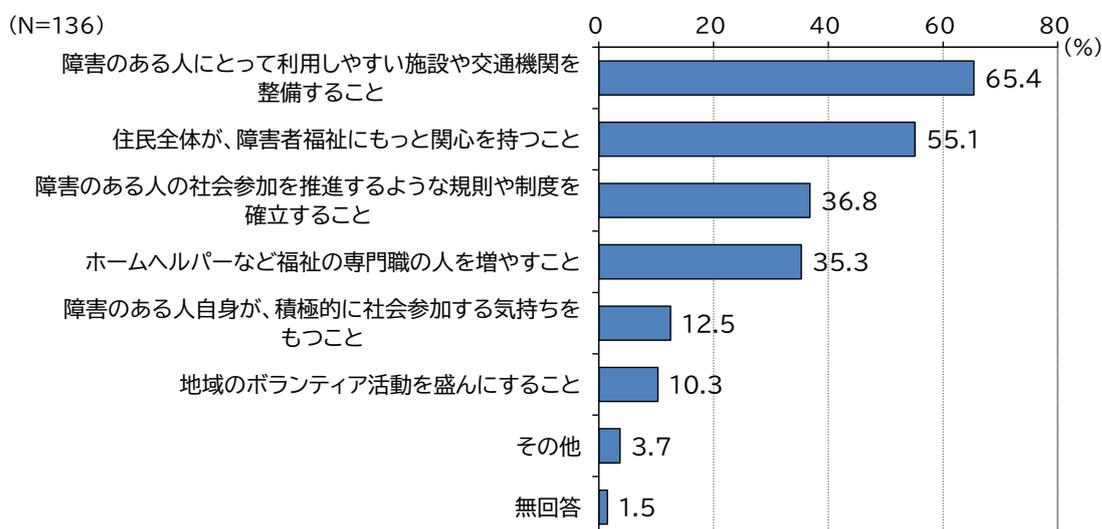


3-4 障害者(児)への支援体制について

問14 障害者(児)が地域で自立して生活するために必要だと思うこと

今後、障害者(児)が地域で自立して生活するためにどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

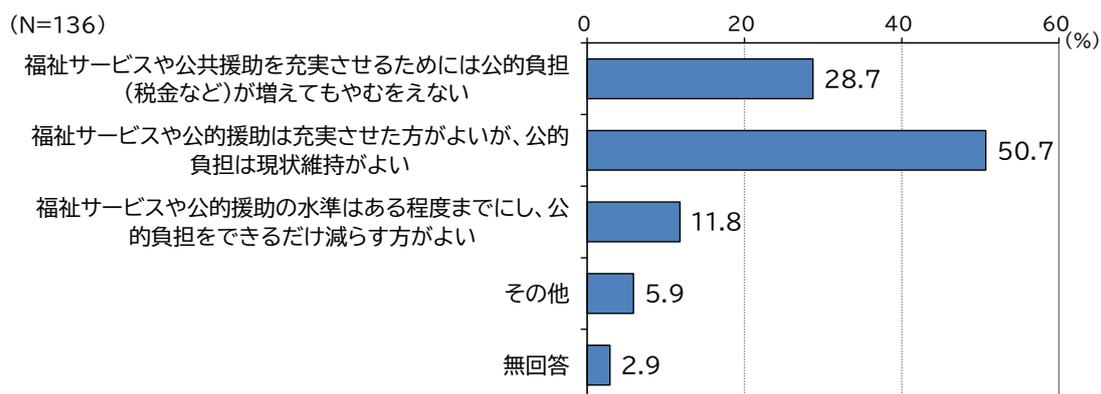
障害者(児)が地域で自立して生活するために必要だと思うことは、「障害のある人にとって利用しやすい施設や交通機関を整備すること」(65.4%)が最も多く、次いで「住民全体が、障害者福祉にもっと関心を持つこと」(55.1%)となっています。



問 1 5 福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考え

障害者(児)が家庭や地域の中で安心して生活するためには、福祉サービスや公共援助を充実させる必要があると言われてしています。これにともなう財源について、どのようにお考えですか。(〇は1つだけ)

福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考えは、「福祉サービスや公的援助は充実させた方がよいが、公的負担は現状維持がよい」(50.7%)が最も多く、次いで「福祉サービスや公共援助を充実させるためには公的負担(税金など)が増えてもやむをえない」(28.7%)となっています。

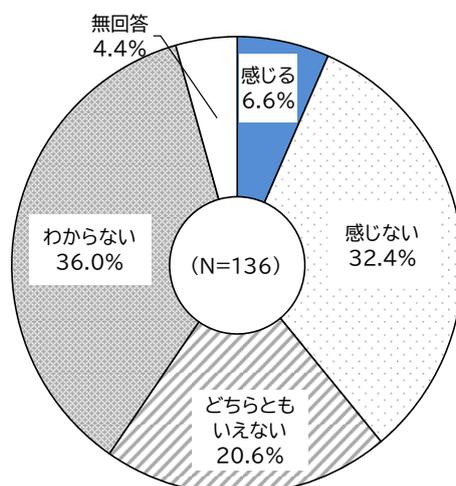


3-5 社会モデルについて

問 1 9 地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価

障害者(児)に関する社会的な障壁を取り除くためには、地域や職場環境などあらゆる社会の中でのバリアフリーの推進やホームページなどでアクセスして誰もが容易に情報を共有できるようにするなど、アクセシビリティ向上の環境整備を図ることが求められています。あなたが、生活する上で、現在の地域や職場環境などでアクセシビリティ向上の環境整備がされていると感じますか。(〇は1つだけ)

地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価は、「わからない」(36.0%)が最も多く、次いで「感じない」(32.4%)、「どちらともいえない」(20.6%)、「感じる」(6.6%)となっています。

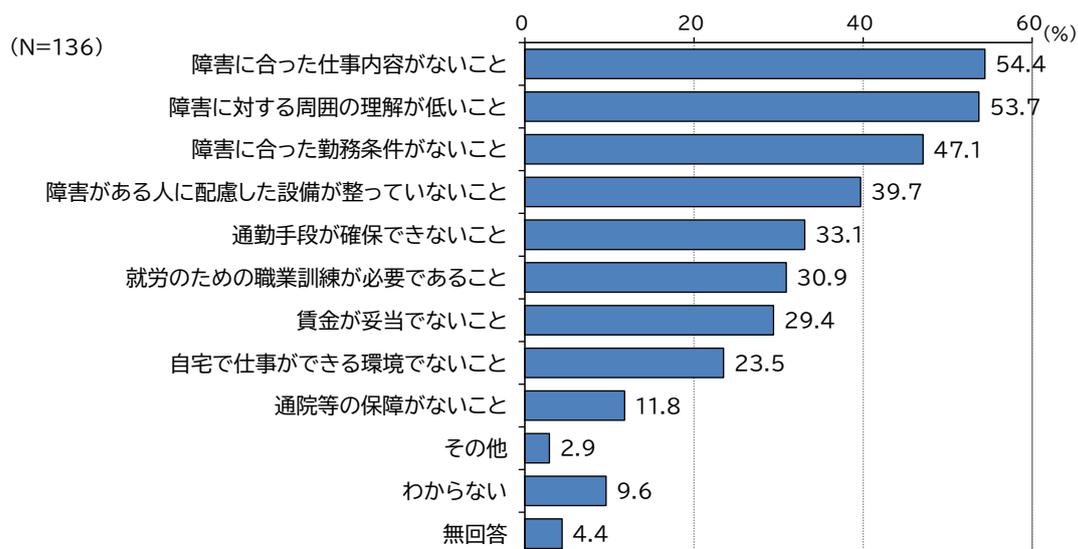


3-6 障害がある人の雇用について

問 2 1 障害がある人の就労時の課題

あなたは、障害がある人が就労する時にどのようなことが課題になっていると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害がある人の就労時の課題は、「障害に合った仕事内容がないこと」(54.4%)が最も多く、次いで「障害に対する周囲の理解が低いこと」(53.7%)、「障害に合った勤務条件がないこと」(47.1%)、「障害がある人に配慮した設備が整っていないこと」(39.7%)、「通勤手段が確保できないこと」(33.1%)となっています。

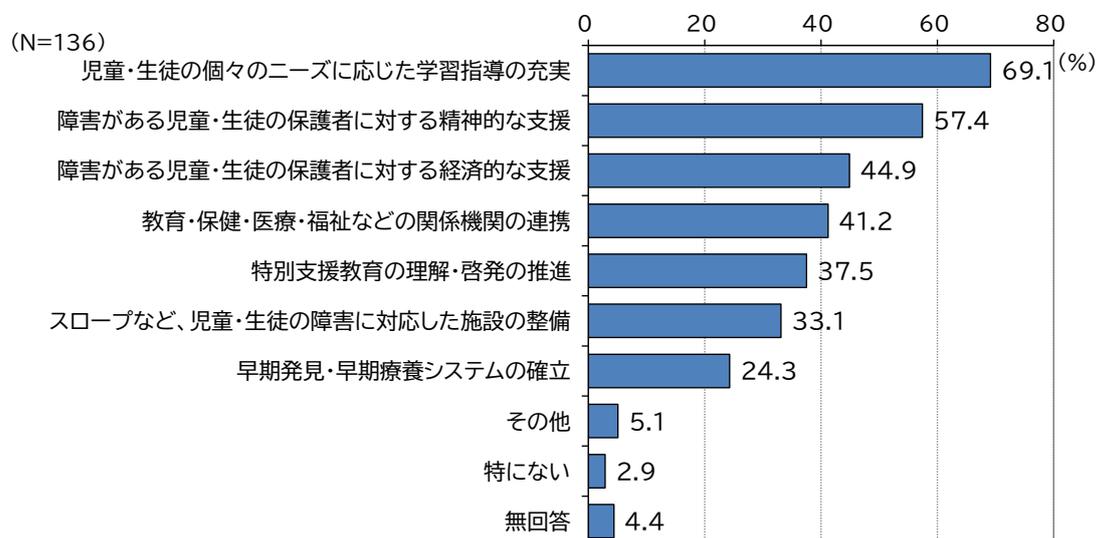


3-7 障害がある子どもについて

問 2 4 障害がある子どもの教育に必要なこと

あなたが、障害がある子どもの教育に必要なと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害がある子どもの教育に必要なことは、「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」(69.1%)が最も多く、次いで「障害がある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援」(57.4%)、「障害がある児童・生徒の保護者に対する経済的な支援」(44.9%)、「教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携」(41.2%)となっています。

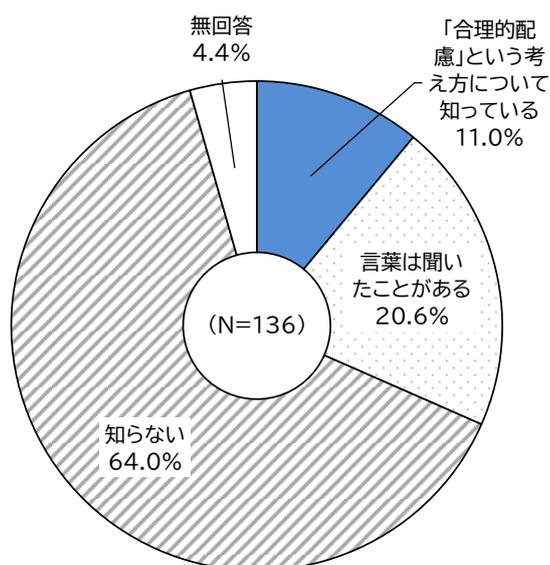


3-8 権利擁護について

問27 合理的配慮の認知度

あなたは、合理的配慮（障害者から何らかの配慮を求める意思表示があった場合に、負担になりすぎない範囲で、社会的な障壁を取り除くために必要な配慮）について知っていますか。（○は1つだけ）

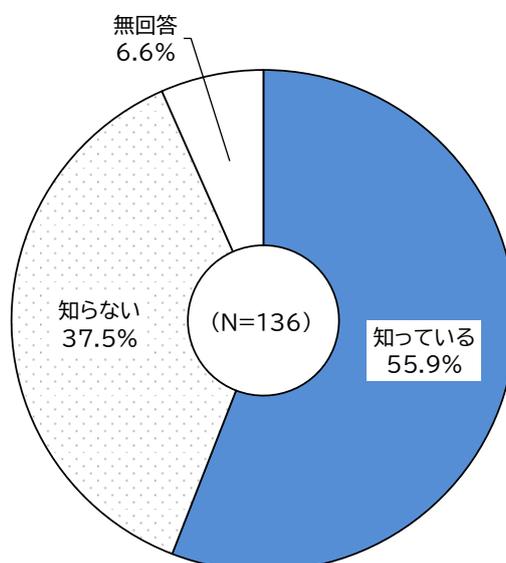
合理的配慮の認知度は、「知らない」（64.0%）が6割を超えて認知度は低くなっており、次いで「言葉は聞いたことがある」（20.6%）、「合理的配慮」という考え方について知っている」（11.0%）となっています。



問33 成年後見制度の認知度

あなたは、成年後見制度を知っていますか。（○は1つだけ）

成年後見制度の認知度は、「知っている」（55.9%）、「知らない」（37.5%）となっており、5割以上の人を知っているという結果となっています。



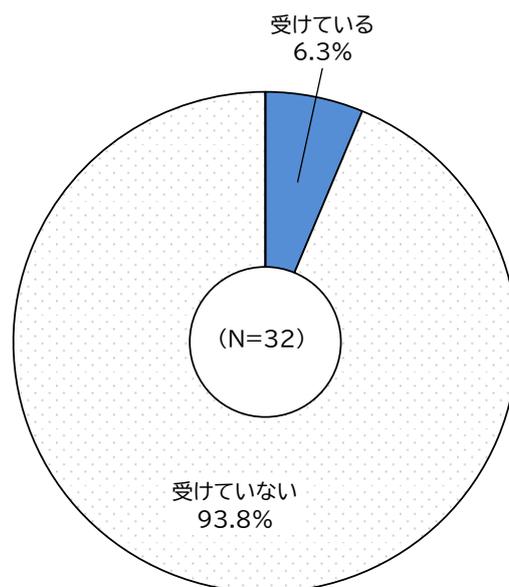
4 障害児通所支援を利用している児童を対象とした調査結果

4-1 お子さんについて

問6 現在医療的ケアを受けているか

おさんは現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)

おさんは現在医療的ケアを受けているかは、「受けていない」(93.8%)が9割以上を占めており、「受けている」(6.3%)は1割未満となっています。

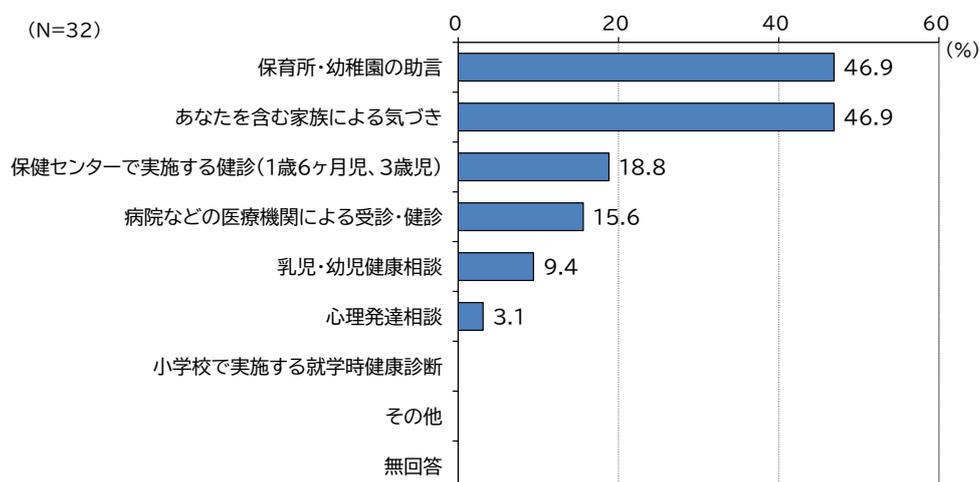


4-2 気づきについて

問8 障害や発達課題に気づいたきっかけ

おさんの障害や発達課題などに気づいたきっかけは何ですか。(○は2つまで)

おさんの障害や発達課題に気づいたきっかけは、「保育所・幼稚園の助言」、「あなたを含む家族による気づき」(同率で46.9%)が最も多く、次いで「保健センターで実施する健診(1歳6ヶ月児、3歳児)」(18.8%)となっており、最も身近にいる家族の気づきが多いことが分かります。

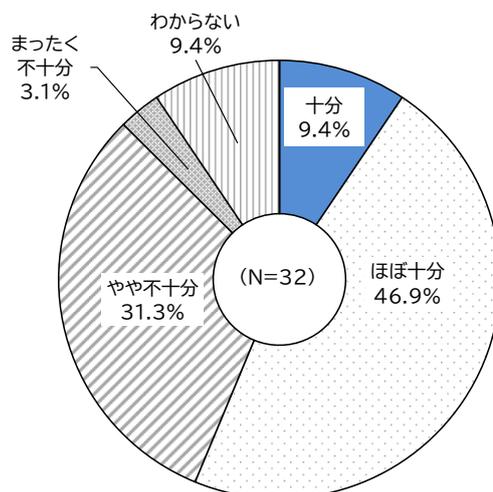


4-3 相談について

問10 困った時の相談体制は十分か

困った時の相談体制について、現在の状態はあなたにとって十分ですか。(○は1つだけ)

困った時の相談体制は十分かは、「十分」と「ほぼ十分」を合わせた『十分』という人が5割以上を占める結果となっています。

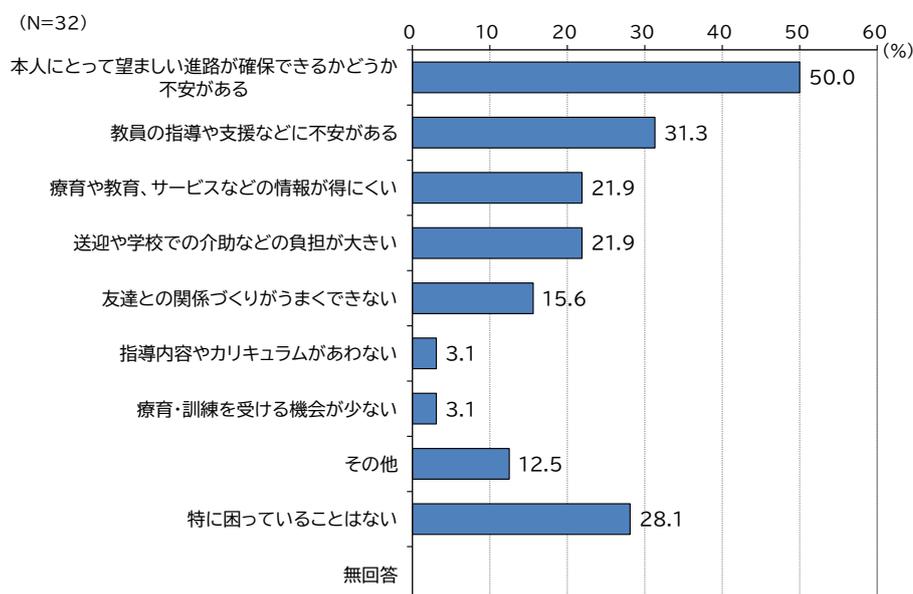


4-4 幼児期・学齢期について

問13 療育や保育、学校教育について困っていること

療育や保育、学校教育について困っている（または以前に困った）ことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

療育や保育、学校教育について困っていることは、「本人にとって望ましい進路が確保できるかどうか不安がある」(50.0%) が最も多く、次いで「教員の指導や支援などに不安がある」(31.3%)、「療育や教育、サービスなどの情報が得にくい」、「送迎や学校での介助などの負担が大きい」(同率で21.9%) となっています。

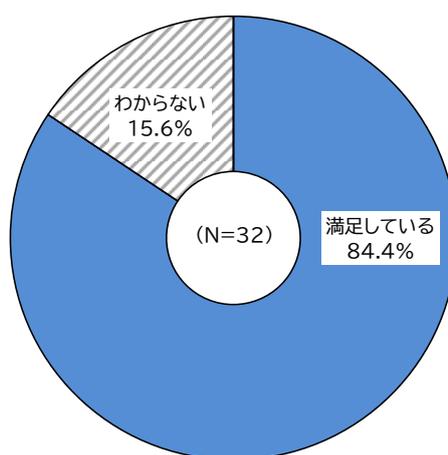


4-5 障害福祉サービスについて

問16 利用している（していた）障害福祉サービスの満足度

障害福祉サービスを利用してはどう思いましたか。（○は1つだけ）

利用している（していた）障害福祉サービスの満足度は、「満足している」（84.4%）が8割以上となっています。

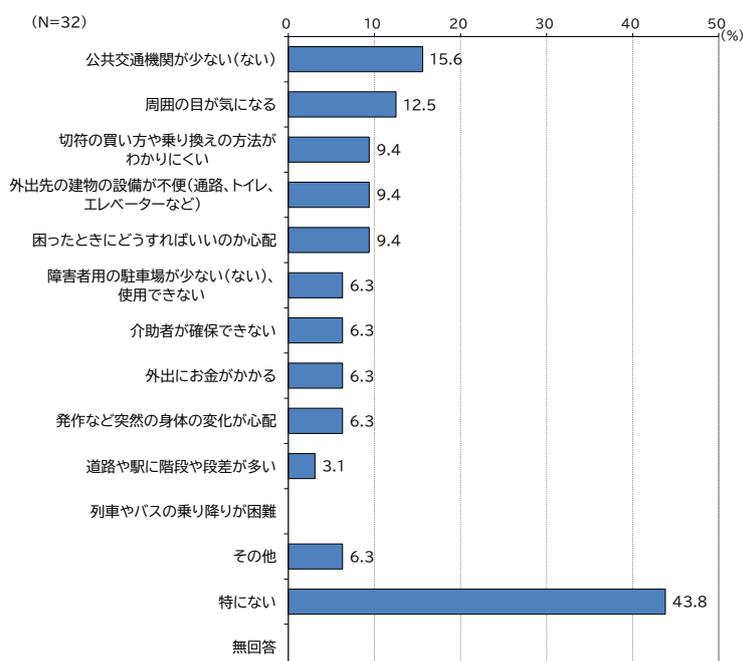


4-6 外出について

問18 外出の際に困ったり不便に感じること

外出の際に市内で困ったり不便に感じることは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

外出の際に困ったり不便に感じることは、「公共交通機関が少ない（ない）」（15.6%）が最も多く、次いで「周囲の目が気になる」（12.5%）となっています。一方で、「特にない」（43.8%）も4割以上と多くなっています。

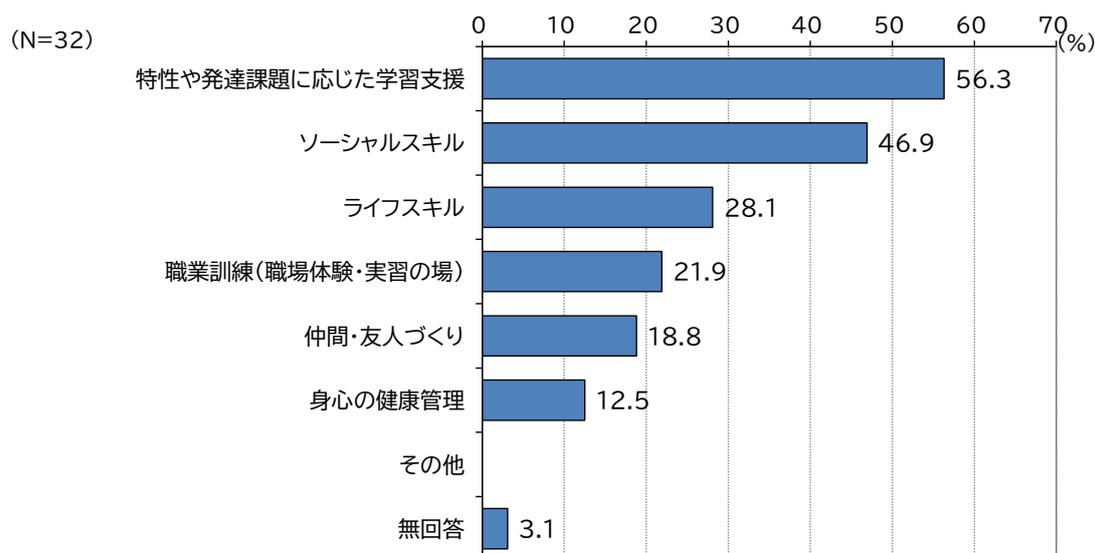


4-7 就労・地域生活について

問19 卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援

卒業後、円滑な日常生活又は社会生活を送るために、学齢期に必要なと思う支援を教えてください。(〇は2つまで)

卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援は、「特性や発達課題に応じた学習支援」(56.3%)が最も多く、次いで「ソーシャルスキル」(46.9%)、「ライフスキル」(28.1%)、「職業訓練(職場体験・実習の場)」(21.9%)となっています。

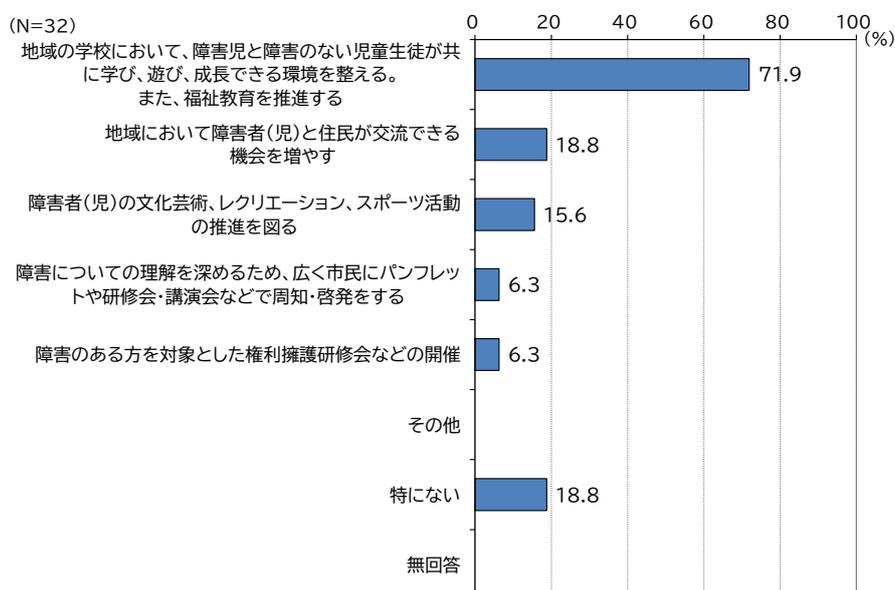


4-8 権利擁護について

問24 障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組み

障害のある方への偏見や差別を解消するため、取り組んで欲しいことは何ですか。(〇は2つまで)

障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組みは、「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が7割以上を占めており、その他の項目と比較して突出しています。

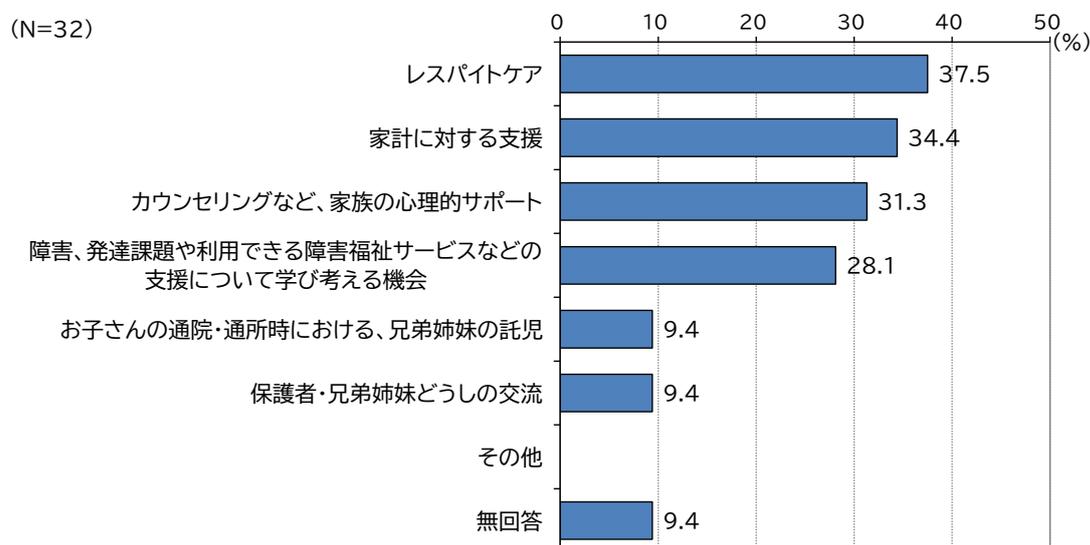


4-9 ご家族の支援について

問25 家族に必要な支援

あなたを含む家族に、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

家族に必要な支援は、「レスパイトケア」(37.5%)が最も多く、次いで「家計に対する支援」(34.4%)、「カウンセリングなど、家族の心理的サポート」(31.3%)となっています。

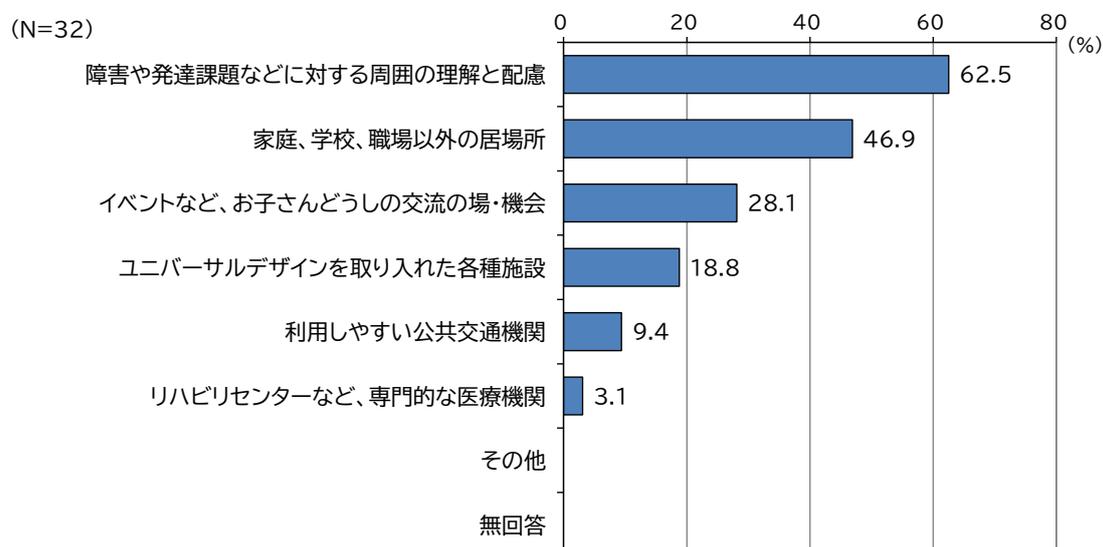


4-10 その他の環境について

問26 お子さんが過ごす環境に必要なもの

お子さんが過ごす環境に、他にどのようなものが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

お子さんが過ごす環境に必要なものは、「障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮」(62.5%)が最も多く、次いで「家庭、学校、職場以外の居場所」(46.9%)「イベントなど、お子さんどうしの交流の場・機会」(28.1%)などのソフト面、「ユニバーサルデザインを取り入れた各種施設」(18.8%)などのハード面での環境が必要という結果となっています。

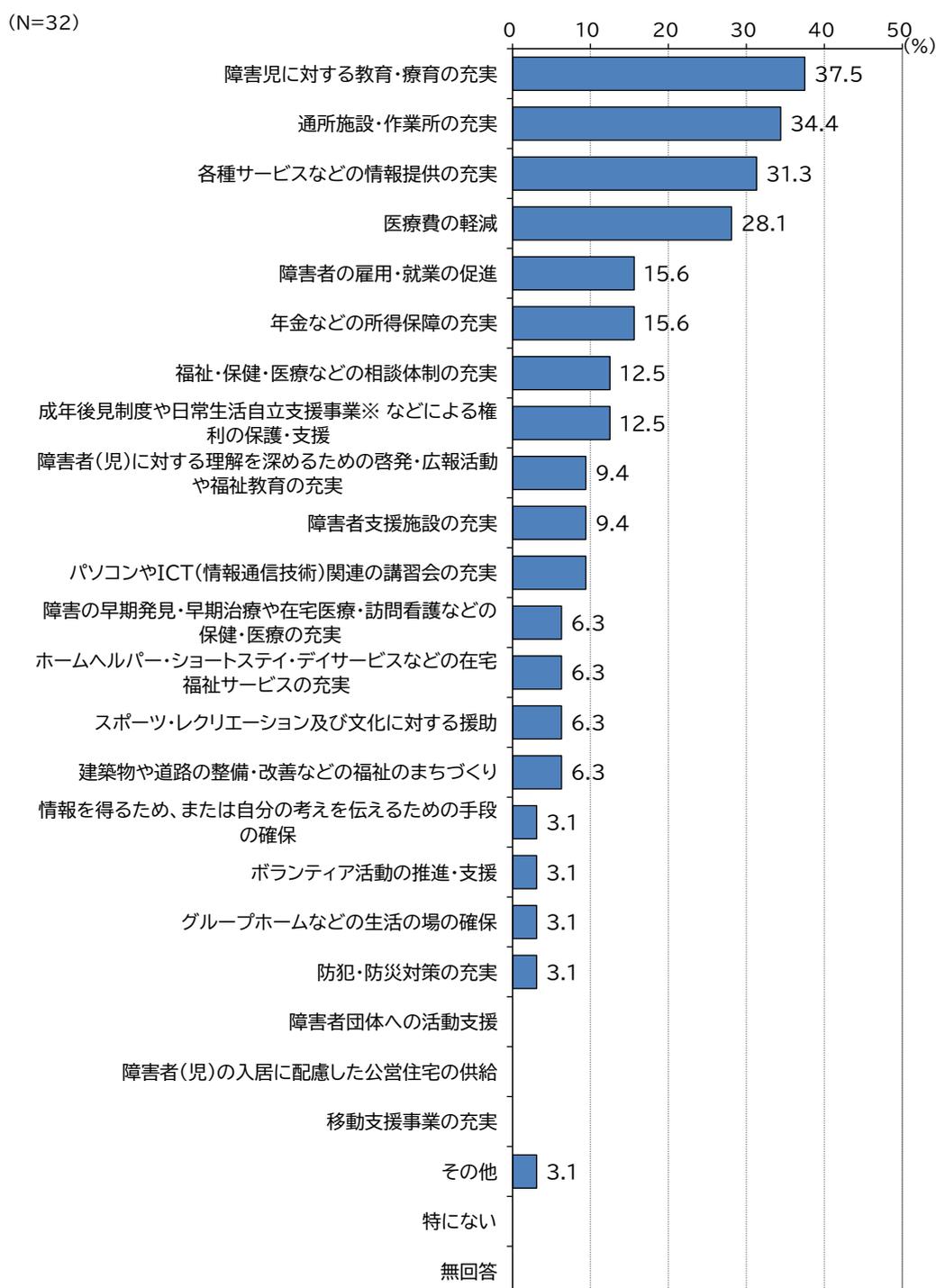


4-11 その他について

問27 障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

今後、障害者福祉分野においてあなたがもっとも充実してほしいのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「障害児に対する教育・療育の充実」(37.5%)が最も多く、次いで「通所施設・作業所の充実」(34.4%)、「各種サービスの情報提供の充実」(31.3%)となっており、障害児に対する教育・療育、障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育などのソフト面での充実を望む人が多い結果となっています。



5 アンケートから見た現状と課題、計画の方向性

5-1 障害者の社会参加、地域とのつながり、情報提供について

障害のある人に障害者団体の行事や活動への参加意向について尋ねたところ、「参加したいと思わない」と回答した方が6割程度と、前回調査（2017年）より1割以上増えています。また、その他の市民に福祉関係のボランティア活動への参加意向について尋ねたところ、こちらでも「参加したくない」と回答した方が6割程度となっており、コロナ等の影響もあるかと思いますが、地域社会への参加が消極的な状況にあります。

また、障害のある人に福祉に関する情報入手の充足度について尋ねたところ、「不十分」と回答した方が6割以上と、前回調査（2017年）より2割以上増えており、情報が届かないために必要な支援・サービス等を利用できないということも十分に考えられます。

また、障害のある人に障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいことについて尋ねたところ、「各種サービスなどの情報提供の充実」と回答した方が最も多くなっています。

計画の方向性

- ・ボランティア活動や地域での交流の場、文化・スポーツ活動の場など、参加できる活動の情報を広く周知し、日常的に交流を深める機会を増やしていくことが重要です。
- ・困ったときの相談機関・場所の情報や、福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報など、個々に応じた方法で必要な情報を必要な人に提供できる体制づくりが重要です。



基本目標 1 障害者の社会参加の促進

5-2 相談支援、障害への理解促進、療育・教育について

障害のある人に困ったときの相談体制の充足度について尋ねたところ、「十分」と回答した方が4割程度となっている一方で、「不十分」と回答した方も3割程度となっており、暮らしの中での悩みや困りごととして「経済的なこと」や「将来の援助・介護のこと」を挙げられる人が多く、相談支援は重要なものとなっています。

また、障害のある人に障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことについて尋ねたところ、「ある」と回答した方が3割程度と前回調査（2017年）より1割以上増えています。また、障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいことについて尋ねたところ、「障害への理解を深めるための周知・啓発」や「学校での教育環境の整備、福祉教育の推進」との回答が多くなっています。

また、障害児通所支援を利用している児童に療育や保育、学校教育について困っていることについて尋ねたところ、「本人にとって望ましい進路が確保できるかどうか不安がある」と回答した方が最も多く、また、障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいことについて尋ねたところ、「障害児に対する教育・療育の充実」と回答した方が最も多く、また、お子さんが過ごす環境に必要なものについて尋ねたところ、「障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮」と回答した方が6割以上と最も多くなっています。

計画の方向性

- ・さまざまなニーズに対応できるよう、相談支援事業所の拡充や相談支援専門員の確保など、関係機関と協同して働きかけを行うとともに、相談支援体制づくりの構築が必要です。
- ・差別の経験が増えており、差別の解消に向けた啓発や周知が必要です。
- ・障害への理解促進の取り組みとして、教育環境の整備や福祉教育の推進が重要視されています。
- ・発達の段階に応じた切れ目のない支援が求められており、障害の特性や個々の能力に応じた指導や進路、将来に関する支援・相談体制の充実が必要です。



基本目標 2 障害者の福祉に関する相談機能の充実

5-3 雇用・就労支援、福祉サービスの充実について

障害のある人に就労支援に必要なことについて尋ねたところ、「職場の上司や同僚に障害者への理解があること」と回答した方が5割以上と最も多く、希望する暮らしを送るために必要な支援について尋ねたところ、「経済的な負担の削減」と回答した方が5割以上と突出しています。

また、障害のある人に利用している障害福祉サービスの満足度について尋ねたところ、「満足している」と回答した方が約5割となっている一方で、「どちらともいえない」と回答した方も3割以上となっており、また、障害福祉サービス利用時に困っていることについて尋ねたところ、「制度（使い方など）がわかりにくい」と回答した方が4割程度と突出しています。

計画の方向性

- ・ 就労の場における障害のある人への理解の促進や、障害の特性に応じた多様な就労の場の確保など、雇用機会の拡大や職場定着のための取組が求められています。
- ・ 福祉サービスについて障害当事者やその家族へ制度内容等を分かりやすい情報の周知を徹底していくとともに、それぞれに応じた適切なサービス利用を促進するため、各関係機関と情報共有、連携を行い、障害の状況に応じたきめ細かな支援体制を整備する必要があります。
- ・ 医療費負担の軽減や各種手当の支給、所得保障の充実を図るなど、経済的な支援をする必要があります。



基本目標 3 障害者の就労・生活の支援

5-4 生活環境の整備について

外出時に困ることについて尋ねたところ、障害のある人は「困ったときにどうすればいいの
か心配」と回答した方が3割以上と最も多く、「公共交通機関が少ない（ない）」や「道路や駅
に階段や段差が多い」といった声も多く、障害児通所支援を利用している児童も「公共交通機
関が少ない（ない）」と回答した方が最も多くなっています。

また、障害のある人に災害などの緊急時の避難が一人でできるかについて尋ねたところ、「避
難できない」と回答した方が4割程度となっており、また、災害等に周囲に助けてくれる人
について尋ねたところ、「いない」と回答した方が約5割となっています。

計 画 の 方 向 性

- ・ 障害者が安心して外出できるよう、利用しやすさへ配慮した道路交通環境の整備や公共施設のバリアフリー化などを推進していく必要があります。
- ・ 災害時に避難できない人の把握と、避難体制の整備、さらには地域に住む一人ひとりが避難訓練等に参加するように防災に対する意識の醸成が必要です。



基本目標 4 障害者が暮らしやすい環境づくり